

ブレディスローカップ～シドニー(2010年9月11日)

旅の最大の目的は、ブレディスローカップ。旅程は、これに合わせてシドニーへ。

当初チケットは、「オーストラリア在住で、オフィスまで取りに来れる人。」という限定が付いていて購入できなかったのですが、出発寸前に、ネット予約でクレジットカード決済後、メールでチケットが配信される「ezy Ticket」が解禁され、無事、これを手にする事ができました。

当日のサーキュラキーでは、2011年にワールドカップを開催するニュージーランド政府観光局が、PRイベントを、ブレディスローカップに合わせて行っていて、巨大なラグビーボールをオペラハウスの対岸に置いて、マオリのショーで周辺を盛り上げていました。昨年、東京で見たイベントが、今年はシドニーで見ただけでなく、同じ人が出演していたので「東京で見たよ！」と声かけて、携帯電話で撮影した東京タワーの下に配置した大きなラグビーボールの写真を見せたら喜んでくれて、またまた一緒に写真に納まりました。



この日は、二人揃ってワラビーズのユニフォームを身にまとい、オリンピックスタジアムに向かいます。スタジアム周辺はカーニバルで、バンド演奏あり、パブスペースありで、大会の大きさ、重大さがわかる状況です。

スタジアムに入場すればワラビーズの応援グッズが配布され、観客はビール片手に盛り上がる。

ワラビーズの歴史を綴るパフォーマンスに続いて選手入場。ニュージーランド国歌斉唱、オーストラリア国歌斉唱。

オールブラックスのハカは、マオリの血が流れるハリケーンズ所属・スクラムハーフのピリ・ウィーブが仕切ります。

オーストラリア側は、ユニオンラグビーのテーマ「Waltzing Matilda」を合唱し、ビッグマッチの手順が全て整って、キックオフ。



前半は、14対6でワラビーズが優勢。けれども、キッカーのマット・ギタウが絶不調で、トライ後のゴールやPGを外し続け、得点を重ねる事ができません。後半もキックの不調が続くも、オールブラックスもトライが取れず最大22対9という13点差。

13点ビハインドで迎えた後半66分、キャプテンのリッチー・マコウの執念のトライ(G)から、集中力が増し、ナンバーエイトのキエラン・リードのトライ(G)で逆転。結果は、22対23という僅差で、オールブラックスが勝利をもぎ取りました。

今回は座席がゴールポストの後方だった関係上、ボール位置の確認が難しかったのですが、本場シドニーで歴史の証人になれた事だけで、幸福な気分になりました。

ブレディスローカップ・・・最高です。



また、ブレディスローカップと別に、12日はカールトンのウィンジュビリー・スタジアムにて、セントジョージ・ドラゴンズ対マンリー・シーイーグル、18日は、オージースタジアムにてシドニー・ルースターズ対ペンリッス・パンサーズのNRLの年間のチャンピオンを決める大切な試合を観戦しました。



どこかの情報で、「オージーと仲良くなるには、スタジアムへ行くのが一番！」なんて書いてありましたが、とにかくオージーはフットボールが好きで、チームウェアを着て、手ぶらでスタジアムに出かけて、プラスチックカップに入れたビールを片手に盛り上がります。必ず2カップのビールを買って、片方を手に、もう片方を下に置き、全部飲めば足元にポイ、下に置いたカップを手に持ち、全部飲めば足元にポイ。すぐに席を立ち、次の2カップのビールを購入して同じことを繰り返します。

おつまみのポテトやホットドッグを購入する人も、食べ終わったら足元にポイ。呑んべの隣に座った日には、ゴミの山に囲まれます。



また、轟頂チームがトライを決めたら狂気乱舞。当然、手持ちのビールが飛び交い、飲み過ぎさんの前に座ればビールまみれでベタベタになります。注意しようと振り返ると、轟頂チームのジャージを着ているのを見て満面の笑顔で、ハイタッチ、乾杯、抱擁などでまたまたビールが飛び交います。



きれい好きの日本人がスーツ姿で、荷物を足元に置いて観戦したなら、試合どころの騒ぎじゃなくなりますから、「郷に入っては郷」・・・チームウェアを着て、ビール片手にわいわい騒いで応援しましょう。酔っ払いのみんなから声掛けられて、楽しい・・・はず・・・ですぞ。

さて、次はニュージーランドで開催するワールドカップを観戦・・・してみたいですね。

2010年9月23日記

Top
[トップ](#)
[へ](#)

Back
[戻る](#)


[ワールドカップ2011～ニュージーランド](#)